



とらいあんぐる



2019 年 4 月

一音会ミュージックスクール発行

「自尊心」

私は昨年度、ある大学で「人格心理学」という授業を担当させてもらっていました。

良い機会なので、授業の準備を通して、人格の発達について自分なりに整理してみました。

発達させるべき人格のいろいろなパーツの中で、一番、欠かせないものは何だろう？

もちろん、こんなことに順番をつけること自体、ナンセンスです。

でも、そんなことを考えながら作業しているうちに、思ったことがあるのです。それは発見と呼んでも良いくらい、私の中で新しく強く生まれた考えでした。

話は飛びます。しばし回想させてください。

私の子ども時代です。

何のとりえもない子どもでした。謙遜でいっているわけではありません。

平凡な子どもでした。「平凡」といっても、もしかしたら良くいいすぎかもしれませぬ。他の子が簡単にできるこ

とで、私ができないことが、本当にたくさんありました。

私の子ども時代を知るよその人は、「ぼんやりしていて目立たない子だった」といいます。これでもかなり気をつかったいい方だと思います。

そんな子どもなのに、家族からは、けなされたことはありません。

「あっちゃんは、良い子だ」

「あっちゃんは、やさしい子だ」

「あっちゃんは、がんばりやさんだ」

「あっちゃんは、お手伝いがじょうずだ」

「あっちゃんは、よく工夫する」

日々、大絶賛です。

こういうことを一番たくさんいうのは、ずっと私の近くにいた母でした。

同じ家に住む祖父や祖母も、口を開けば、呪文のように「あっちゃんは、良い子だ」を繰り返していました。

毎日、いわれていると、不思議なもので、「もしかしたら、私は本当にすごい子なのかもしれない」と思うように

なります。

明らかにパッとしない私にとって、それは確かな希望になっていました。

それが、本当の意味の「呪文」であることを知るのは、ずっと後のことになります。

母が書いた「とらいあぐる」の中に、母の幼い頃のエピソードが紹介されていました。

幼い母は、ひっこみじあんで無口です。

ある時、家にお客さまが来ます。祖母は、母の前で、高らかにいいます。

「この子は、良い子なんですよ。お客さまにきちんとごあいさつができるんです」

ニコニコする祖母の前で、ひっこみがつかなくなった幼い母は、勇気をふりしぼって、こういいます。

「いらっしゃいませ。ごゆっくりおすごください」

祖母は、うれしそうな顔をします。

お客さまは、「まあ、小さいのに、な

んでしょうなごあいさつでしょう！」と、ほめてくださいます。

祖母は、「そうでしょうか？」と、さらにうれしそうな顔になります。

「いえ、いえ、そんな・・・」という謙遜はしません。

祖母は、自分の子どもの前で、他人にむかってわが子をほめる母親でした。

母は、「とらいあんぐる」の中で、当時をふりかえります。

あれは呪文だった。「この子は、こんなふうに見えるんですよ」と他人の前で宣言することで、本当にできるようになった。祖母の魔法にかけられていた、と。

それを読んで、私も納得がいきます。

何もできない私に、母があれだけ「あっちゃんは良い子」、「～～ができる」、「～～もできる」と、毎日、いい続けた理由がようやく分かるのです。

母は、祖母の実践を引き継いでいました。家族の中だけでなく、よその方の前でも、私をほめました。

「アヤコは、良い子なんですよ」と、臆面もなくいっていました。私は何のとりえもない子どもでしたから、さぞかしかげで笑われていただろうと思います。

母も、そんなことはよく分かっていたと思います。母にとって、そんなことはどうでも良かったのでしょうか。

私の子育ては、というと、残念ながら、祖母や母のやり方を引き継げなかった、と思います。

そのことに今、気づいて、深く後悔しています。

子どもたちが幼い頃、自分がしてもらったように、子どもを人前でもっとほめてあげれば良かった、と思うのです。



当時は、気がつきませんでした。
そもそも、私の子どもは、ほめたく
なるような子どもではありませんでし
た。

でも、それは言い訳になりません。
私自身、ほめたくなるような子ども
ではありませんでした。なのに母は、
自分がかげで笑われることもかえりみ
ず、人前で私をほめてくれたのでした。

自分がしてもらったことを、子ども
にしてあげられなかったことは、私の
大きな後悔になりました。

私が今できることは、私の後悔を、
今、幼い子を育てているお母さまに伝
えることだと思っています。

子どもを持つ身で、自慢や親バカは、
うとまれます。わが子がかわいくて、
わが子が一番と思いたいのは、皆、同
じです。でもそれを恥ずかしげもなく
出してしまうことは、ためらわれます。

私自身、祖母や母の実践を、自分で
は実行できなかった身ですから、その
あたりの気持ちはよく分かります。

子ども同士がお友だちのお母さま同
士（ママ友）では、このような会話を
されることがよくあるでしょう。

相手の子をほめて、くらべる形で、
自分の子をけなします。あるいは自分
の子をけなし、くらべる形で、相手
の子をほめます。

「A子ちゃんは、しっかりしている
わ。それに比べてうちの子は・・・」

「うちの子ったら、全然だめね。そ
れにくらべてA子ちゃんは・・・」

一種の謙遜なのでしょう。でも、謙
遜して良いのは、自分のことだけです。

子どもにも人格はあります。子ども
を謙遜の道具にしてはいけません。特
に子ども本人の前でけなすのは、おと
なが思う以上にマイナスの影響があり



ます。

どういうマイナスであるか体感するために、ちょっと想像してください。

あなたは人前で、他人からこういわれます。

「この人はダメなんですよ。この人と同じ年齢の〇〇さんは、子育てを完璧にされて、しかも素晴らしいお仕事をされていて、年収〇〇万円もあるんですよ。すごいですね～。それにひきかえ、この人ときたら・・・」

などと、同世代の知人をひきあいに出して、あなた自身の劣っているところ、うまくできなかったことなど、つらつらといわれてしまったら・・・。

ものすごくみじめな気持ちになると思います。

その場にいるのも、つらくなるでしょう。

たとえ内容が正しかったとしても、わざわざ人前でそんなことをいう人を大嫌いになるでしょう。

こんな屈辱を与えた人の顔は、二度

と見たくない、と思うかもしれません。

小さな子どもだからいい、ということはありません。

小さな子どもは、自尊心を育てている最中です。

だから、おとな以上の傷を負います。

自分の子どもだからいい、ということはありません。

子どもは、親とは別の人間です。

そして、子どもにも人格があります。

私は、自尊心は、人格の発達の中で、もっとも重要なパーツであると感じています。

自尊は、自己中心とはちがいます。

自分を尊重できる人は、自分を信じ、努力できる人です。

自分を尊重できる人は、自分をさらに高めようとする人です。

自分を尊重する人は、自分の考えを大切にし、自分で判断できる人です。周囲に流されません。

自分を尊重できる人は、他人を尊重することもできる人です。

私ほどの年齢になっても、母の呪文は生きています。

母は、人前でこんなふうにいいます。

「私は、『江口メソード』は、世界一のメソードだと思っています。どのメソードよりよくできています。私の自信作です」

ここまでは、まあよしとします。

そしてここで、まったく文脈と関係なく、こういうのです。

「でも私の娘は、メソードよりもよくできています。私の最大の自信作です」

いうことが、壮大すぎます。

「もう～なんでそんなこというのかな～」と、消え入りたい気持ちでした。

でも、「母の自信作」でありたい、という気持ちは、常に私の胸の奥にあり、生涯、消えることはないでしょう。

4月になり、教室では新しいスケジュールがスタートします。新しい先生との出会いもあるでしょう。

教室で、先生相手の時は、思い切り

わが子自慢をしてください。

ママ友の間で、わが子自慢をしにくいことは、よく分かります。

その分、一音会でたくさん、お子さんの良いところをきかせてほしいと思います。かならず、お子さん本人の前で、きかせてください。

一音会の先生たちは、生徒さんを自分の子どものように愛しています。

先生にとっても、そのお子さんの良いところ、すてきなところをきかせてもらうのは、うれしいことです。

子どもにとって、親が他人にむかって、自分のことをほめているのは、直接ほめられる以上にうれしいことです。

自尊心を育てます。「ぼくはすごいんだ」、「私は愛されている」、その感覚が子どもの人格の核になります。

「先生、うちの子はこんなに良い子なんですよ！」

たくさんたくさん、きかせてください。楽しみにしています。

(江口 彩子)

◆新年度のレッスンはスタートしました

新年度がスタートしました。

皆さまに新年度希望表をご提出いただき、無事、新時間割を作成することができました。新時間割作成の際には、お時間やコースについて、たびたびご相談、ご連絡をさせていただきましたが、多くの方が、お忙しい中、折り返しご連絡をくださり、ご家族の皆さまのご協力に、深く感謝しているところです。本当にありがとうございました。

さて、新しい時間割がスタートしています。新しい生活スケジュールは、いかがでしょうか。新時間割は、できる限り、皆さまのご希望にそってお組みしたつもりですが、新生活がスタートしてみると、生活のタイムスケジュールが思うようにいかないことも、しばしばです。もし、不都合が判明しましたら、レッスン時間の変更についてご相談ください。

レッスン曜日・時間等の変更は、なるべく早く、本部にお電話ください【本部：03-5966-7711（担当・伊藤、矢島）】。4月15日（月）までに、変更希望をおっしゃっていただければ、5月から新しいスケジュールでお受けいただくことができます。

ただし、年度がわりの変更と同様、曜日や時間帯を変更される場合、原則として担当も変わってしまいますので、その点はどうかご了承ください。

生徒さんが新しいスケジュールにはやく慣れていただけますよう、スタッフ一同、心を尽くします。今年度もどうぞよろしく願いいたします。



◆年間スケジュールをお配りしています

年間スケジュールが完成しました。この「とらいあぐる」と同時にお配りしています。

今年最大の行事である「ピアノ発表会」は、8月2日（金）・3日（土）・4日（日）・5日（月）の4日間です。

場所は、音響に定評のある「かつしかシンフォニーヒルズ アイリスホール」です。「かつしかシンフォニーヒルズ」は、いわゆる多目的ホールではなく、演奏会専用のコンサートホールです。今年は、第一希望としていたホールをおさえることができました。

今年も、リトミック発表の演目を拡充する予定です。また、「うたクラブ」をご受講の生徒さんにも、舞台上がっていただきます。

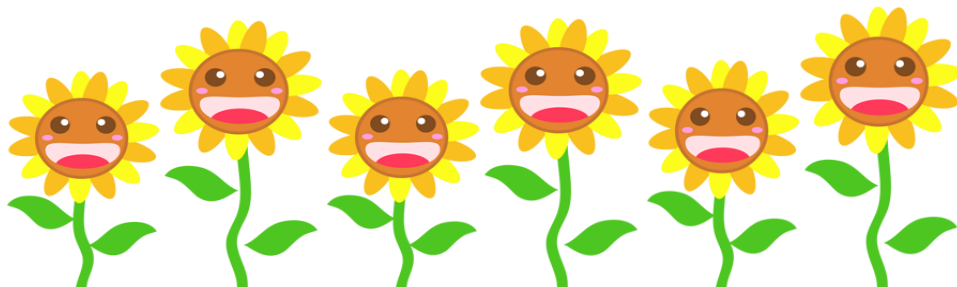
「ピアノ発表会」は、原則、全員参加です。4日間、開催していますので、ご都合の良い日を決め、ご予約をあけておいてください。ご協力をよろしく願いいたします。

この春、ピアノをおはじめになった生徒さんも、十分、間に合います。毎年、4月に入会した生徒さんも、夏の発表会で活躍してくださっています。

今年の夏も、素晴らしい夏になることでしょう。最高の舞台になりますよう、スタッフ一同、全力で指導にあたらせていただきます。

「ピアノ発表会」のくわしいご案内は、追ってお配りいたします。ご不明の点は、本部までお気軽にご質問ください【本部：03-5966-7711（担当・谷口）】。

その他のイベント日程に関しましても、スケジュール表でご確認ください。



◆客員教授プリドノフ先生ご夫妻が来日します

5月に客員教授のユージン・プリドノフ先生、エリザベス・プリドノフ先生のご夫妻が来日されます。プライベートレッスン、コンサート、オーディションを予定しています。

日程は、以下のとおりです。コンサートの場所は、「ひびきホール」です。コンサート時間とプログラムは、追ってお知らせいたします。コンサートの日は、ぜひご予定をあけておいてください。

レッスン	: 5月18日(土)・19日(日)・20日(月)	
コンサート	: 5月25日(土)	時間は追ってお知らせいたします
オーディション	: 5月26日(日)	〃

レッスンは、五線読譜が完成した生徒さんであれば、どなたでもお受けいただけます。未就学の生徒さんがお受けくださったこともありますし、おとなの生徒さんもお受けくださったこともあります。

レッスン用に大きな曲をご用意いただく必要もありません。練習曲など、普段のレッスンで進めている曲でお受けいただけます。ぜひこの機会に、世界の一流音楽大学の先生のレッスンを受けてみてください。

「ジュニコン・オーディション」の要項につきましては、先月号をごらんください。大きな舞台のチャンスであるだけでなく、先生方から厳しくもあたたかい講評をもらうこともできます。オーディションも、ぜひお一人でも多くの生徒さんにご参加いただきたいと思います。

ご不明な点は、お気軽に本部までお問い合わせください【本部：03-5966-7711（担当・谷口）】。

30分レッスン……レッスン料（12500円）＋通訳（2500円）→ 15,000円

45分レッスン……レッスン料（18750円）＋通訳（3750円）→ 22,500円

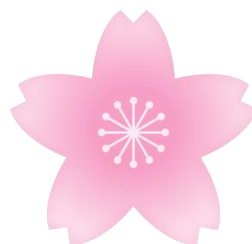
60分レッスン……レッスン料（25000円）＋通訳（5000円）→ 30,000円

◆欠席連絡をメールで受け付けています

この4月から、欠席のご連絡をメールで受け付けています。ぜひ登録してご利用ください。以下が、欠席連絡用のメールアドレスです。

oyasumi_ichionkai@yahoo.co.jp

- ◆件名にかならず生徒さんのお名前を書いてください。
- ◆メールの本文には、①生徒さんお名前、②欠席日時、③レッスン曜日、④担当名（何のレッスンをお休みになるのか）を、かならずお書きください。
- ◆欠席連絡以外の、レッスンの振替依頼や担当への問い合わせは、このメールではお受けできません。別途、お電話ください。



◆今年のサクラ

今年はお二人、音楽系の進学を果たされました。お二人とも第一志望に見事合格です。これからのますますのご活躍をお祈りしています。おめでとうございます。

洗足学園音楽大学（ピアノ・プロフェッショナル・パフォーマンスクラス）1名

玉川学園大学（芸術学部）1名

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。

